

TOPICS

理学部ガイダンス2017報告

田近 英一（教務委員長／地球惑星科学専攻教授）

2 017年4月26日(水),駒場キャンパス
900番講堂にて、教養学部2年生向けに理学部の全体ガイダンスを開催した。

最初に武田洋幸学部長からの挨拶があり、理学部の概要紹介と理学の面白さを伝える熱いメッセージが語られた。続いて、筆者から理学部における教育の特色について簡単な説明を行った。次に、佃達哉キャリア支援室長より、理学部の学生はほとんどが大学院へ進学することや就職の心配は不要であるという説明があった。また、塩見美喜子男女共同参画室長から、女子学生のキャリアパスの現状説明と女子学生懇談会のアナウンスがあった。その後、各学科の紹介をそれぞれ5分間ずつで行っていただいた。どの学科の説明もたいへん力が入っていて、各学科や学問分野の魅力が学生に伝わったのではないかと思われる。

ガイダンスの出席者数は、昨年度(2015年5月7日)が150名程度、昨年度(2016年5月12日)が250名弱だったが、今年



武田洋幸理学部長の挨拶

度は用意した資料320セットを配りきるほどの大盛況だった。その翌日から行われた各学科のガイダンスも、軒並み昨年度より盛況だったようである。出席者が増えた背景には、ガイダンスの時期が早かったこと

や新しい進学選択制度では第二段階において志望学科をいくつでも書けるようになったことが関係しているのかも知れないが、いずれにせよ、最終的に理学部への進学希望者が増えることをぜひ期待したい。

小平桂一名誉教授が2017年春の叙勲 瑞宝重光章を受章

家正則（国立天文台名誉教授）

小 平桂一本学名誉教授が、2017年5月9日に皇居にて行われた春の叙勲伝達式にて「瑞宝重光章（すいほうじゅうこうしゅう）」を受章されました。

小平氏は、恒星物理学と銀河物理学の分野において精力的に研究活動を進めるとともに、日本の大型光学赤外線望遠鏡（すばる望遠鏡）計画の総括責任者として日本初の外国設置の国有研究施設となった国立天文台ハワイ観測所を設立し、すばる望遠鏡の完成に尽力されました。日本の天文学はすばる望遠鏡を軸に、遠宇宙や系外惑星などの観測研究の分野で世界的な成果を挙げていますが、その国際的な活躍の端緒を切り拓く上で大いに貢献されました。

1964年に本学理学部助教授に就任されて以来、小平氏は東京大学東京天文台が国立天文台に改組された後も本学大学院での天文学教育に一貫して携われたことはもとより、1994年4月から2000年3月までは国立天文台第2代台長を務められ、2001年4月から2008年3月までは総合研究大学院大学学長として大学法人化前後の大学運営に、またその後は日本学術振興会ボン研究連絡センター長を務められ、学術行政面や学術国際交流の促進にも大きな貢献をなされました。



小平桂一名誉教授 ©NAOJ